

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1986号 2009年09月14日(月)

《 untested government 》

今週日本で発足する「new and untested government」(新しいがその実力が未検証な政府、米紙の表現)は、為替政策を巡って早くも試練に立つ可能性がある。先週のドル・円相場の円高値は90円の21銭。もう一步で90円割れの水準である。週明け月曜日のドル・円相場も90円台のローと、いつ89円台になってもおかしくない水準にある。90円台の相場と80円台では株式市場などマーケットが受ける印象は随分と違うし、日本経済が受ける影響も大きくなる。

このドル安・円高相場の水準は、為替市場で進むドル安の一環という意味合いが強い。しかしそれはまた、日本の民主党の今までのどちらかと言えば「円高志向発言」を反映した面もある。しかし今の日本にとっては90円を突破するような円高は、「輸出企業の収益力低下」「株価の下落リスク」そして「国内デフレ圧力の促進」という三つのデメリットがある。80円台に円相場が入れば、「円高是正」の声が強まるだろう。新しい民主党政権がそれに対してどう動くかは読めないところがある。対応を間違えば、円高に拍車がかかる可能性がある。

今の市場を見ると、ドル全体が弱いことは言うまでもない。ユーロ・ドル相場を見ても1ユーロが1.46ドル弱のところにある。これは明らかにユーロ高・ドル安の水準であり、ドルはこのところずっと円を含む多くの通貨に対して弱い。その背景には、「アメリカの出口戦略発動は相当先になる」「米国内金利、特に短期金利の低い水準は続く」「雇用情勢が悪い米景気の先行きは消費不振が続くことで暗い」などの背景がある。こうした見通しがある中で、インドや中国の成長が加速し、それがアメリカ国内資本(ヘッジファンドを含む)の海外流出を招いている。

重要なのは、今のアメリカにとってドル安はすこぶる歓迎できる事だ、ということだ。まずアメリカ経済にとって重要な輸出の振興に役立つ。アメリカ産の穀物は海外市場で競争力を増し、それは数少ないが工業製品についても言える。次に国内のデフレ圧力を緩和してくれる。日本と逆の関係にある。第三に株安要因とならない。先週のニューヨークの株式市場がドル安の中でも基調強含みで推移したことでそれは明らかである。

過去のアメリカの通貨政策を振り返ると、ドル安を本気で止めたのは二つの条件が揃ったときだ。第一はドル安が長期金利高、株安など国内景気の悪化、または悪化懸念に繋がったとき、第二は各国政府からドル安是正を求められたとき。最初の長期金利上昇の中には、

インフレ懸念がある。ドルが安くなればアメリカの輸入物価は上がる。上がれば、または上がる懸念が強まれば長期金利が上昇して、アメリカの成長力が低下する。加えて各国から「ドル安是正」の圧力があれば、アメリカは動いてきた。

しかし、今のアメリカには、そうした国内懸念がない。諸外国が黙っていてくれば、ドルは安い方がアメリカにとって良い。今のところ、中国からも、欧州からも、ましてや日本からも「ドル安に対する懸念」が聞こえてこない。聞こえてこないばかりか、日本の今週発足する民主党政権は、一般的には「円高志向」だと思われている。

財務相に就任すると噂されている藤井裕久・民主党顧問はかねていろいろなマスコミに「円高は基本的には日本にとって良いこと」と発言していると伝えられている。彼が今週その役職に就くのかどうかは不明だが、仮に80円台に円相場が突入してくれば、民主党の通貨・金融担当大臣に問われる質問の一つは、「今の円高にどう対処するか」だろう。その時点ではドル・円相場が80円台に入っている可能性は十分あるからだ。

実は民主党の通貨政策ははっきりしない。マニフェストにも載っていなかったように思うし、「次の内閣」の担当相の発言には米国債の扱いなどについてかなり乱暴な発言も過去にあって、それを理由に円相場が動くこともあった。「untested government」が最初に試されるのは「通貨政策」の可能性がある。

《 unchecked higher yen 》

先週の円相場を見ると、対ドルばかりでなく多くの通貨に対して円高が進行した。他の通貨に対してのドル安はそろそろ収束に向かいつつあるかのような状況ではあるが、そうした中でも円高がジワジワ進んでいるため。その背景の一つはキャリー取引の巻き戻しもあるだろう。

今の為替市場の状況を考えると、全体的なドル安が止まっても、円高が暫く続く可能性がある。その一つの背景は、日本の新政権の為替政策が明確でないためだし、政権構築のプロセスの中で政策的空白時間が生じているからだ。繰り返すが、「今のアメリカにドル安と自ら止める理由」はない。そういう意味では、日本を含めて欧州や中国から今週は「ドル安を牽制する発言が出るかどうか」が一つの注目だろう。

今週は民主党の新しい政府が出来る。下馬評は山のように出ていましたが、確実なのは菅直人副代表の国家戦略室のトップ就任と岡田幹事長の外相、それに平野博文・民主党役員室長の官房長官のみ。あとはまだ鳩山次期首相の腹の中にある。藤井裕久さんも閣僚入りの確率はかなり高いという見方が多いが、確定しているわけではない。

それにしても、「いざ民主党政権が出来る」となると通貨政策から何から予測できないことが多い。マニフェストもいろいろ書いていたが、それがどの程度、どのような工程で実施されるのかもよく分からない。それだけ民主党は実際の政策運営には遠かったと言うことだ。

国民の新たな付託を受けて政権に就くわけだから、しっかりした政権を作って速く多く

の分野の政策について筋の通った政策を打ち出して欲しいと思う。

今週の主な予定は以下の通り。

9月14日(月)	7月鉱工業生産(確報)・設備稼働率 8月首都圏マンション販売
9月15日(火)	独ZEW景気期待指数 米8月生産者物価 米8月小売売上高 米9月ニューヨーク連銀製造業景気指数 米7月企業在庫 中国4中全会(共産党中央委員会第4回全体会議) (~18日)
9月16日(水)	日銀政策決定会合(~17日) 特別国会召集(~19日)(16日に首相指名選挙を行う、所信表明演説や各党代表による衆参両院での代表質問は10月の臨時国会に延期) 米8月消費者物価指数 米8月鉱工業生産・設備稼働率 米9月NAHB住宅市場指数
9月17日(木)	7~9月法人企業景気予測調査 7月第3次産業活動指数 白川日銀総裁記者会見 米8月住宅着工・建設許可件数 米9月フィラデルフィア連銀製造業景気指数 8月北米半導体製造装置BBレシオ スイス中銀政策金利決定 アフガニスタン大統領選の公式結果発表
9月18日(金)	7月景気動向指数(改定値) 9月日銀金融経済月報 山口日銀副総裁講演 自民党総裁選告示(9月28日投開票)

《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。日曜日は東京は綺麗な晴れでした。まだ日中は暑いものの、秋の気配は着実に濃くなっていて、徐々に涼しくなる。土曜日は富士山の山麓にいましたが、丁度半袖か長袖かで悩む気候でした。

それにしてもイチローは数多くの話題を作る選手です。それだけ優秀だと言うことでしょう。今は大リーグ2000本安打を通過して、「9年連続200本安打」に挑戦中。この文章を書いている時点では、ダブルヘッダーの第一試合の試合開始が遅れて、試合が始まったばかり。イチローの第一打席はセカンドゴロ、第二打席は左翼線に二塁打(打点1)。彼の200本が達成されるまではこのニュースでもちきりとなる。

まあ今年の200本通過は固いでしょう。あと一本ですから。来年は「10年連続200本安打」に挑戦することになる。ただし、ここ数試合の彼を見ていると、やはりちょっと平常心ではない気がする。バットの振りが鈍い。今年はまた体調不良でスタートの数試合に出ることが出来なかった。これまでの大リーグ時代のイチローには考えられなかったような事態が起きている。

年齢も考えると彼の記録持続は徐々に「神の領域」になってくる。なるべく長く活躍して欲しいものです。

それでは皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は住信基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》